

遠距離介護が、見えにくくなる子世代の親世代

パオッコ活動現場より②

NPO法人パオッコ 離れて暮らす親のケアを考える会 太田差恵子

お年寄りが携帯電話を使っておられる姿をちよくちよく見かけます。こんな調査結果もありました。「60歳以上の親の4割以上が携帯電話を利用。同じ携帯電話会社を利用して親の6割以上が「自分が利用していた携帯電話会社に親が合わせた」(gooリサーチ2009年)。約1年前の調査なので、いまはもっと利用率はあがっているのではないのでしょうか。

先日帰省した折、私の母親(76歳)が真新しい携帯電話機を持っていました。母の所属するサークルで名簿作りをしたところ、10人中9人が携帯をもっていることが判明したとか。つまり使っていないのは母ひとり。

驚いたと言っていました。母曰く多くは、子どもから「何かあったときに困るから持って」と「持たされて困る」感じだとか。これまで母は「不便はないから」と持たなかったのですが、「もし、入院でもしたら」と不安になったそうです。公衆電話の数も減っています。確かに、病気になるから「持って」と子から渡されても、すぐに操作することは難しいでしょう。「持たされるより、自分から持とう」というのが母の動機です。

パオッコの仲間が集まった時にも、ときどき携帯電話の話題がでます。はじめてパオッコに顔を出した方からは、「うちの親に、携帯電話なんて使いこなせつ

こありません。まして、携帯メールなんて、ぜつたい無理」とおっしゃることが多いです。が、会員を長くやっている方からは、「携帯メールに成功しました!」という声をしばしば聞きます。操作を教えやすいように、自分と同じ機種をプレゼントする方も。

ある女性会員さんからこんな話を聞きました。あるとき、ひとり暮らしをする夫の母(80代)が言ったそうです。「バス旅行に行くとき、みんなカチャカチャと携帯でメールをしていて悔しい」。勝気なお義母さんなんです(すばらしい!)。女性は義母と一緒に携帯電話を買いに出かけました。そして、「どんな些細

なことでも聞いてください。私と夫の携帯なら、空メールを送ってもだいじょうぶですから」と言ったそうです。

義母のメール技術はほとんど上達。最初はひらがなが中心でしたが、そのうち絵文字もまざるようになったそうです。「いま、旅行中です」とメールがはいることがあります。そんなとき、女性は速攻で返信します。バス旅行仲間の前で「あら、メールが来たわ」とちよつと得意気な義母の姿が想像できるから。また、義母はこうも言ったそうです。「ひとりでバス旅行に出かけても、携帯電話のおかげで、あなたたちとつながっているみたい」と。

男性の会員さんからは、こんな話を聞きました。両親(父80代・母70代)は故郷で2人暮らし。母親が父親の介護をしています。コミュニケーションに役立てば、と男性は母親に携帯のメールを教えました。両親とは生活の時間帯が異なるため電話でのやりとりとなると頻度がする。

「たくさん話をする。メールは必需品」。

「電話以外に、Eメールで気楽に通信していました。また、実家への帰阪時には面談も」。

日常生活に浸透したメール。介護の分野でも、ますます活用されるようになることでしょう。

新品の携帯電話を前にして、私の母は、説明書を一生懸命読んでいました。私が、番号を聞くことになると、「赤外線、赤外線」といいます。ざりざり40代の私ですが、打ち明ければ、赤外線を使ったことはありませんでした。その機能を利用することで、簡単にアドレスや電話番号を交換できることは知っていたのですが、なんだか面倒で使つてこなかったのです。

母の勢いに押されて、自分の携帯電話をアチコチ触って、赤外線機能の在り処を発見。生まれて初めてデータ交換に成功しました。母から絵文字のメールが入る日も近いことでしょう。

のではないのでしょうか。きっと、男性のことを頼りにしているのだと思います。

お年寄りに機器類は無理、と決めつけている子世代は少なくありませんが、意外と使えるのかもしれないと思つて自分から言い出す。照れくさくて自分から言い出さないケースもあるのではないのでしょうか。使いこなせるさな方も多いと思います。

先日、遠距離介護の講演をしたとき、会場にいられたアマネジャーも言っておられました。「急な連絡ができるよう、利用者さんと固定電話だけでなく、携帯電話やファクスも利用しています」と。専門家と高齢者の連絡にも携帯電話は徐々に利用されるようになってきているようです。

パオッコのウェブサイトに、「ケアマネジャーとの付き合い方」というページがあります。そこでは「コミュニケーションをとるうえで工夫していること

NPO法人パオッコ ～離れて暮らす親のケアを考える会～

親世代はできることなら生涯、住み慣れた家で住まい続けたいと望み、子世代も仕事や子どもの教育などを考えると、故郷に戻ることは容易ではありません。そんな状況のなか、親の心身に衰えが生じると子世代はどうしたものかと悩みます。パオッコは「ひとりの経験はきつとみんなの役に立つ」という理念のもと、情報や体験を共有。ぜひ、ホームページに遊びにきてください!

〒113-0033 東京都文京区本郷3-37-8
本郷春木町ビル9F インキュベーションハウス内
ホームページ <http://paokko.org>